



蘇る、蒲生の自然

蒲生干潟と海浜

3月号

地下茎が潜む蒲生海浜

2月24日撮影



静まりかえる蒲生の自然

北端の干潟



野鳥は繁殖地へ



1年間の蒲生の自然を振り返って



2011年3月11日の津波により「一時復元不能」と言われた蒲生の自然を、自分の目で確かめてみようと昨年の4月より観察を始めました。あっという間に1年が過ぎました。蒲生干潟の動植物の名前や生態はほとんど知りませんでした。詳しい人に聞いたり、図鑑などで調べたりして少しずつ分かってきました。

予想を超えた蘇りぶりに驚いています。1年間の観察で印象に残った動植物を紹介いたします。

人の気持ちを癒やす枯れたアシ原と緑のハママツナ原



厳しい環境の中での生長

流木の下から群生するウンラン



最も海寄りに群生するハマニンニク



海浜に色鮮やかな花畑



ハマヒルガオ



ハマエンドウ



ハマニガナ

津波の痕跡を伝える一本松



蒲生の一本松



干潟の一本松

たくさんの生き物



フナムシ



ガキ



フジツボ

多種のカニ

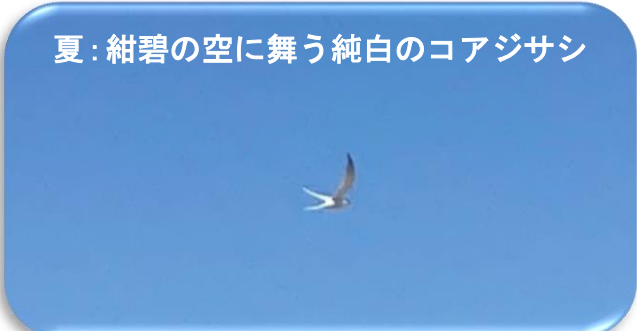


他にも魚や貝、
そして土中にもた
くさんの生き物が
生息しています。

蒲生干潟は野鳥の楽園



春・秋：シギ・チドリ類の渡来



夏：紺碧の空に舞う純白のコアジサシ



冬：ガン・カモ類の渡来



冬：シルエットのコクガン



チュウサギの子育て(5~8月)



津波で流された流木に佇む
カワウ

繁殖期になると



ゴイサギの子育て(5~8月)



津波で流されたコンテナに佇む
チュウサギ



餌にありつけないウミネコの幼鳥



カワウの群飛



つがいのマガモ



河口の中州に佇むウミネコ

他にもたくさんの種類の渡り鳥が渡来してきます。干潟では、一年中野鳥の姿を見ることができます。



「蘇る、蒲生の自然」は今月号で終わりです。毎月、オヤッ?と思うことばかりでした。しかし、それは当たり前のことかもしれません。

旧中野小学校の跡地に築かれた「なかの伝承の丘」です。モニュメントが表現している蒲生干潟の1年間の様子を、「蘇る、蒲生の自然」と題してまとめてきました。自然の力で蘇ろうとしているのがよく分かりました。



なかの伝承の丘



震災後、災害危険区域の指定を受けた中野蒲生地区には新しく家を建てることができなくなり、住んでいる方はごくわずかです。また、旧中野小学校は平成28年3月31日に閉校となりました。「なかの伝承の丘」では、その歴史の一端を知ることができます。

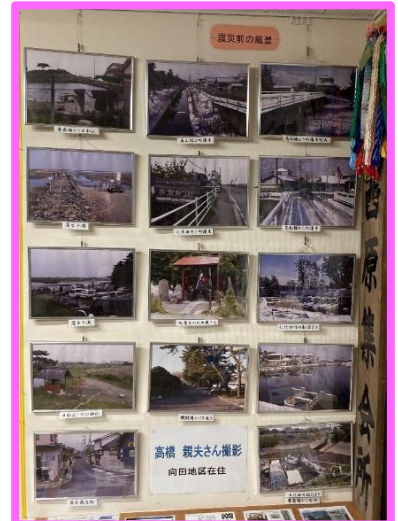
また、当地区の高砂市民センターには貴重な写真資料等が展示されています。

高 砂 市 民 セ ン タ ー





日和山のジオラマ



震災前までの蒲生地区と旧中野小学校の記憶がよみがえります。和太鼓演奏や学校生活の様子が分かる映像も保管されています。



専門家を招いての地域の歴史講座や干潟の観察会、さらにオモイデトークなども開催されています。



蒲生の自然は、あしたへ続く

2月26日撮影



中野ふるさと YAMA 学校主催の海岸清掃 (2月27日)



蒲生干潟にも、芽吹きが春がすぐそこに！

参考にしたもの

わたしたちの中野 仙台市立中野小学校
フィールドガイド日本の野鳥 <財>日本野鳥の会
野鳥観察ハンドブック水辺の鳥 <財>日本野鳥の会
蒲生干潟の現在 (いま) 2021-2019 干潟を守る会
みやぎ県政だより 2021年7・8月号
フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』

お世話になった方々等

高砂市民センター
中野ふるさと YAMA 学校
スリーエム仙台市科学館
干潟に野鳥観察に来られた方々
「蘇る、蒲生の自然」を毎号読んでいただいた方々

